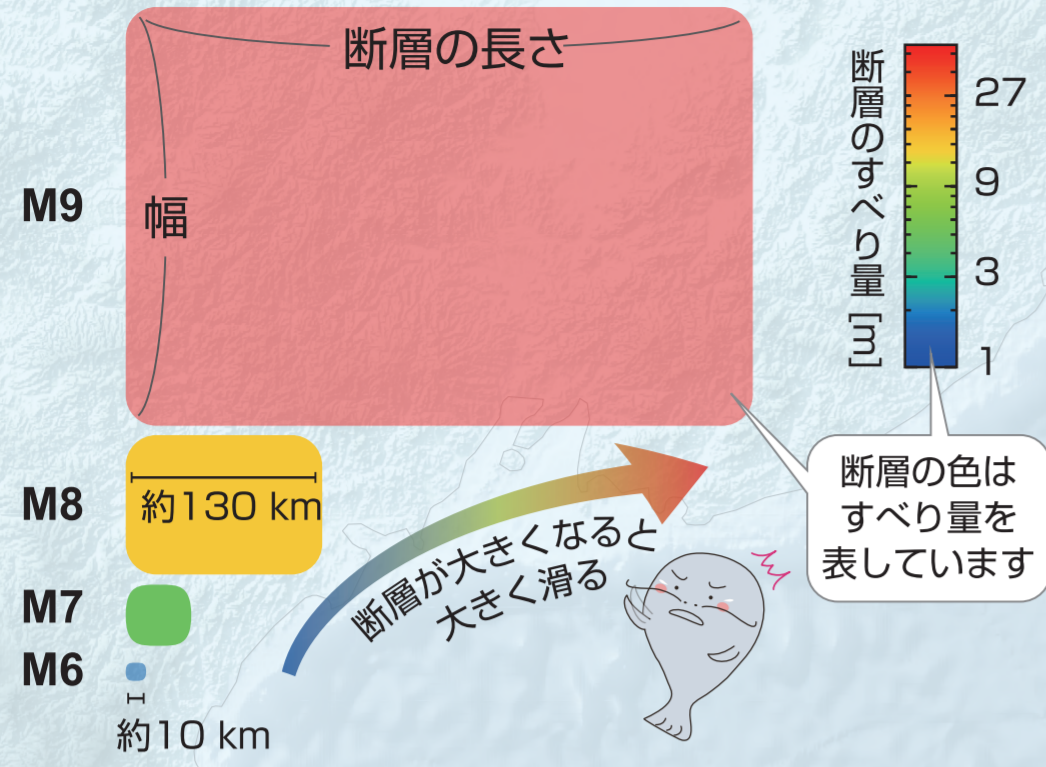


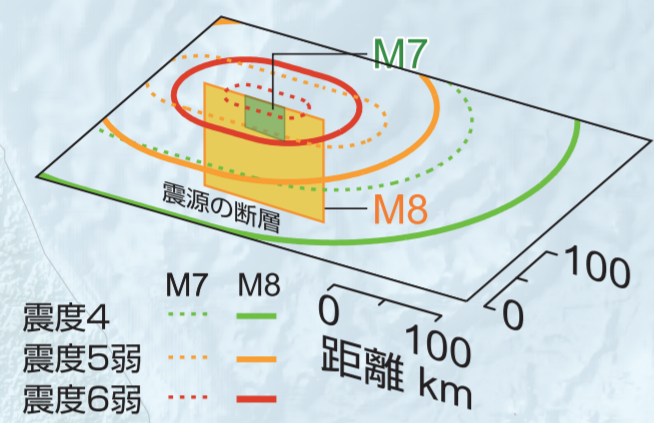
明治時代以降の主な被害地震

断層(震源域)の大きさと地震の規模

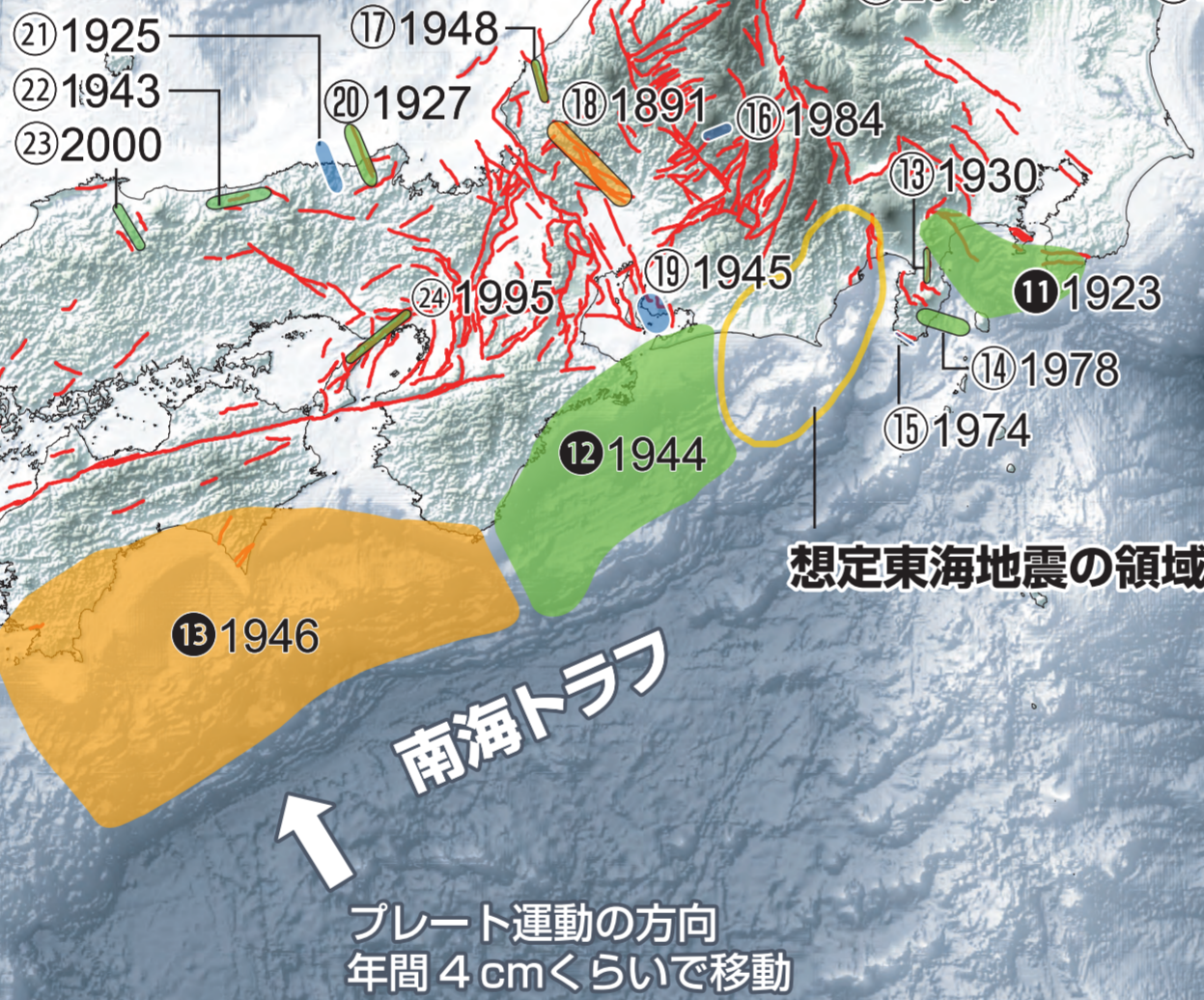
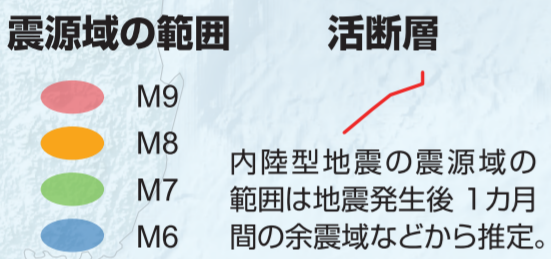


地震の規模(マグニチュード:M)とは、断層がすべることで放射されるエネルギー量のことです。マグニチュードの大きさは、断層の面積とすべり量のかけ算で決まります。より大きな断層は、より大きく滑ることがわかっています。

地震の規模と震度 -身近な活断層に要注意-



震度で表される地震の揺れは、震源に近いほど強く、大きくなります。このため、都市の近くで起こる内陸型地震は、規模は小さくても被害が大きくなります。



内陸型地震	
① 1940年積丹沖地震	M7.5
② 1993年北海道南西沖地震	M7.8
③ 1983年日本海中部地震	M7.7
④ 1939年男鹿地震	M6.8
⑤ 1896年陸羽地震	M7.2
⑥ 2008年岩手・宮城内陸地震	M7.2
⑦ 1964年新潟地震	M7.5
⑧ 2007年新潟県中越沖地震	M6.8
⑨ 2004年新潟県中越地震	M6.8
⑩ 2011年福島県浜通りの地震	M7.0
⑪ 2011年栄村の地震	M6.7
⑫ 2007年能登半島地震	M6.9
⑬ 1930年北伊豆地震	M7.3
⑭ 1978年伊豆大島近海地震	M7.0
⑮ 1974年伊豆半島沖地震	M6.9
⑯ 1984年長野県西部地震	M6.8
⑰ 1948年福井地震	M7.1
⑱ 1891年濃尾地震	M8.0
⑲ 1945年三河地震	M6.8
⑳ 1927年北丹後地震	M7.3
㉑ 1925年北但馬地震	M6.8
㉒ 1943年鳥取地震	M7.2
㉓ 2000年鳥取県西部地震	M7.3
㉔ 1995年兵庫県南部地震	M7.3
㉕ 2005年福岡県西方沖地震	M7.0

海溝型地震	
① 1973年根室半島沖地震	M7.4
② 1952年十勝沖地震	M8.2
③ 2003年十勝沖地震	M8.0
④ 1968年十勝沖地震	M7.9
⑤ 1896年明治三陸地震	M8.2
⑥ 1933年昭和三陸地震	M8.1
⑦ 2011年東北地方太平洋沖地震	M9.0
⑧ 1978年宮城県沖地震	M7.4
⑨ 1936年宮城県沖地震	M7.4
⑩ 1938年塩屋崎沖地震	M7.3-7.5
⑪ 1923年関東地震	M7.9
⑫ 1944年東南海地震	M7.9
⑬ 1946年南海地震	M8.0
⑭ 1911年奄美大島近海地震	M8.0

揺れにくい場所 揺れやすい場所



揺れの大きさは震源からの距離だけでは決まりません。地震による揺れは、その場所の地下が柔らかいほど大きくなります。例えば、東京や大阪のように柔らかいものが厚くたまっている場所では、揺れやすく液状化も起きやすくなります。これに対し、高い丘のような場所には比較的かたい地層が分布しており、地震の時に揺れにくくなります。

柔らかい地層の分布は地質図を見ることがわかります。防災科学技術研究所の地震ハザードステーション(J-SHIS)でもどこが揺れやすいかを知ることができます。

地質図の閲覧は [地質図Navi](#)

0 100 200km

※この地図はメルカトル図法で作成されています。日本の領土のすべてを表しているわけではありません。大陸およびサハリンの海岸線は精密なものではありません。海底地形は英国海洋データセンター (British Oceanographic Data Centre) 発行の "GEBCO_08 Grid" を利用しました。内陸活断層の位置は全国主要活断層活動確率地図 (吉岡ほか、2005) に示されたものです。